



## リハビリテーション医学講座

# 患者さんが将来どこにいても、いきいきと 元気で過ごしていけるように



主任教授 大井 直往

### ■学生教育

病気が治るということは、解剖学的・生理学的に治るということだけでなく、日常生活活動や生活満足度が元に戻ることに捉えることもできます。生まれつきの障害や高齢に伴う老化の状態を、医療で治療させることはできません。「もうできることはないから、おうちに帰ってください」で退院させて、それで医師の役目は終わりでしょうか。その患者さんはおうちに帰ってから障害や疾患をもったまま、ずっと生活していくのです。自分の家で生活をする人や、さまざまな事情で施設や病院で生活していく人の、先を見すえながら病院での治療やリハビリテーションを考える。患者さんが将来どこにいても、いきいきと元気で過ごしていけるようにする。それがリハビリテーションです。医療の限界を踏まえて目の前の患者さんとの関わりにベストを尽くすこと、これを学生みんなに教育するのがこの講座の一番の使命です。

### ■研究

研究のキーワードは「運動」です。運動に関係する器官は全部リハビリテーション医学の対象です。筋・腱・軟骨・骨・脳・脊髄・末梢神経・心臓・血管・肺・腎、それに栄養、代謝系を加えます。

1. 脊柱の矢状面での変形と関連する固有背筋群の疲労の研究は、表面筋電図により固有背筋の筋活動を測定し、筋の姿勢保持機能の衰えが高齢者の前かがみ姿勢を起すことを検証します。
2. 腱は単なる紐でなく、エネルギーをため込んで吐き出す力がスポーツのパフォーマンスに関わります。しばしばスポーツ障害の部位となりますが、障害を捉えるテストの日本語化と、それをを用いて腱障害に対する運動療法を開発するのが目標です。
3. 脊椎疾患の術後疼痛に影響する術前因子の研究では、患者さんの破局的思考が術後の疼痛に最も影響することを示し、その後に慢性疼痛に至らないようにする方法を考案しました。今後の縦断的な研究でその効果を検証します。
4. 時系列波形に着目した静止立位における左右下肢の動きの差異の研究では、立位における左右下肢には役割の違いがあり、荷重量の多い下肢側の重心が先に動いてバランスをとる人が多いことがわかりました。次に高齢者のバランス能力の低下を防ぐ運動を考案するのが目標です。

次のキーワードは「代償」「栄養」「休養」です。どれも活動能力の向上に必要なものです。代償は介護ロボットに通じます。栄養は運動と切っても切り離せず、栄養をとらずに運動すれば筋肉量は減ります。休養は運動の過用による組織障害の修復に必要です。



2018年日本リハビリテーション医学会学会発表(福岡市)

### ■社会活動

障害者の社会参加を実現するには、障害者の身体だけを診てもだめで、社会を変えることが必要です。

1. 地域リハビリテーション活動は、地域包括ケアシステムの理念を先取りしたものです。障害者や高齢者にとって福島県を世界一住みやすい場所にすべく福島県高齢福祉課と共に努力中です。
2. 障害者スポーツ活動の目標は障害者がスポーツを安全に楽しみながらやることによりQOLを上げることです。福島県障がい者スポーツ協会と協力しています。
3. 災害リハビリテーション医療は、大規模災害後の生活不活発病発生の予防とともに避難所での生活環境の改善を目標とします。福島JRATの事務局として活動中です。



2018年福島県障がい者スポーツ大会サッカー会場(いわきFC PARK)